

第27回歩こう会「油山観音」

2013年9月27日

ようやく朝晩が涼しくなった快晴の9月下旬、福岡市城南区の西鉄「油山」バス停に5人が集合。6月以来、久しぶりの歩こう会だ。

油山(標高597m)の名称は、6世紀にインドから渡来した僧が、油山観音「正覚寺」で椿の実から油をしぼる燈油製法を伝えたことに由来すると言われている。現在では油山観光道路が整備され、「油山市民の森」「油山自然の森」「もーもーランド油山牧場」など、福岡市民の憩いの場となっている。

油山観音は油山の中腹にあり、緩やかな登り坂を30分ほど歩くと「油山観音霊域」と書かれた参道になる。

うっそうとした参道をしばらく歩くと急な石段になり、「新羅式石門」と呼ばれる石門がある。この石門をくぐると本堂だ。



新羅式石門



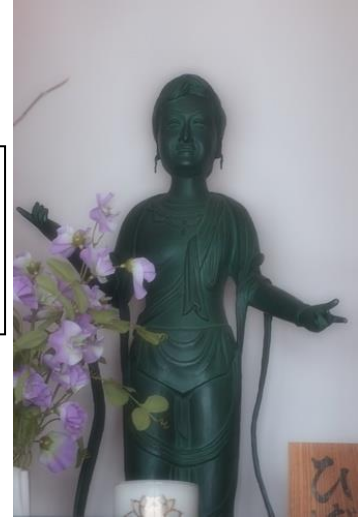
十六羅漢石像(一体一体、顔の表情が違う)



境内にはなんと美空ひばりを祀る「ひばり観音堂」が併設されている。美空ひばりは済生会福岡総合病院で一度は命を取り留めたこともあり、福岡とは縁が深い。



ひばり観音堂



ひばり観音

油山観音からは「花畑園芸公園」を通過して山を下った。花畑園芸公園はみかんを初めとする87種類、約1300本の果樹が育成されている「花とフルーツの公園」である。園内は実りの秋を迎えている。山のように下がったキウイや、見たこともない果樹の群れをくぐって麓に降りた。



今日の締めは恒例の温泉だ。今回は「楽天の湯」で汗を流した。いつもながら、歩いた後の心地よい温泉と冷たいビールは至福のひと時だ。

10月度の歩こう会は初めての一泊旅行を計画しています。行先は大分県の宇佐神宮、昭和の町、そして中津では黒田官兵衛の足跡を巡ります。

以上

歩こう会世話人； 関、大和